

追加指標(あれば良いなという指標)の提案

指標案を考えるに当たり、現在提示済みの指標を再度読み直してみました。既に多くの指標が提示されており、かつ、詳しい内容まで分析できている事を再確認しました。しかし、それだけでは行政評価を追認しているだけの事になり、この推進会議の真の目的ではない事は、既に意見として上がっています。

それで新指標の検討となった訳ですが、指標案が妥当か否かを議論する際、委員毎に多様な評価軸があるため、さまざまな意見が出されると思います。どの指標を採用するかは、推進会議の重要な役割ではありますが、評価軸がまちまちなままでは判断基準が不明瞭で、整合性のない指標が乱立してしまう懸念があります。それを払拭するため、評価軸やその枠組みの案から意見申し上げます。

<二次元の枠組みで指標を分類>

現在、「分野」という1つの軸で指標を分類しています。分野の数や分け方は違和感なく納得します。しかし、各分野には10個前後の指標が列挙されており、それらの指標で分野を十分に説明できているのかというと、違う感じがします。個別の行政施策から分野に関連した既存指標を集めただけなので網羅性に欠け、指標が偏っていると感じます。例えば市民がどう感じているかといった市民目線の指標は不足していると思います。

また、行政評価の視点で指標化されているので、全てプラスに評価しようという指向が強く、課題を見つけ出しにくいと感じます。強みや弱みを発見しやすくするための工夫が必要です。今の「分野」だけで分類するのではなく、「成熟度や進捗度あるいは浸透度」といった観点の分類軸を追加し細分化する方法を提案します。つまり、指標を単次元の枠組みから、二次元の枠組みで分類する方法です。二次元にする事で視覚的にも分かりやすくなり、また、会議においても的を絞った議論ができ効率的になると思います。

<レベルは「機会」と「結果」と「質」の3段階>

追加する「成熟度や進捗度、浸透度」の軸を「レベル」とし、境界線のイメージが付きやすい3区分で分類する事を考えてみます。レベル1、2、3の定義は以下のように考えてみました。

- ・レベル1: 参加や協働等では「(参加等の)場」があるかといった意味合いで、「機会」の指標
- ・レベル2: 行事等の実績人数や参加率といった実績値を表す「結果」の指標
- ・レベル3: さらに踏み込んだ内容や評価、市民の感じ方といった「質」の指標

この分類方法については委員からのコメントを賜りたいですが、レベル1→2→3へと成熟度が高まるイメージで考えました。レベル1は、そもそも場があるのか、チャンスや(参加・協働の)受入可能性が十分なのかといった計画の指標としました。レベル2は、結果がどうだったのかという客観的な事実

を表現したいと考えました。レベル3は、内容に踏み込み主観的なあるいはそれを表現できるような指標を想定してみました。

例えば、協働の場合、事業数や団体数はレベル1、何か行事を実施した時の参加者数はレベル2、その行事等が良かったとか改善点等を数値化できればそれをレベル3といったイメージです。一覧で表すと下表となり、各マス目には評価のポイントを記しました。まずは現状の指標をこの2つの軸で分類し、その上で不足しているマス目を補強していても良いと思います。各マス目にはシンボリックに信号マーク(Ⓜ)を入れてみました。マス目毎に「良かった」または「改善・強化が必要」といった状況を評価するイメージです。

分野	レベル(成熟度、進捗度、浸透度を表す分類)		
	レベル 1(機会指標)	レベル 2(結果指標)	レベル 3(質指標)
参加	参加の場	参加人数、率	参加した感想、評価
協働	事業数、団体数	主催、参加者人数	反響、評価
情報共有	共有項目、媒体	受領者数、アクセス数	反応、意見
市政運営	評価項目、危機項目	健全化率、対策結果	良化または悪化
包括	認知度、理解度	行動実績	評価、意欲

<新指標の案>

現在、提示されている指標に対し、さらにあつたら良いと思われる指標案を申し上げます。ここでは指標の入手実現性についてはあまり考慮せず、「本来ならばあつた方が良い」という観点で記述します。

【参加】

結果指標(レベル2)とみなせる参加者数や率は既に多く提示されています。しかし、どのくらい参加の機会があるのか、という観点も指標として明確化した方が良いと思います。機会が十分でありながら参加者数が少ないのか、そもそも参加機会が足りないのかを分析すべきだと思います。また、参加結果の満足度のような評価も指標化した方が良く、改善活動の目安になると思います。

一方、(私の勉強不足要因がありますが)生涯学習やスポーツ振興の指標は意図が理解できず、削除するか別指標に変えた方が良いと思います(福祉推進の保険加入者数も同様)。

(追加案)

- ・ ふれあいミーティングの開催予定数と可能(現実的)な最大参加人数(レベル1)
- ・ (審議会女性割合)参加可能審議会数や応募可能な公募枠(レベル1、報告事項から指標へ)
- ・ ボランティアが活動した延べ人数および正味人数(レベル2)と、活動結果の満足度(レベル3)
- ・ 防災や消防訓練の想定最大参加者数(レベル1)と、参加結果の満足度(レベル3)

【協働】

事業の実績状況は提示されていますが、それが多いのか少ないのか、良かったのか悪かったのかが分かりません。参加規模をどの程度に想定し、結果はどうだったのか、何が良くて課題はどこなのか、といった流れが掴みにくい指標群だと感じます。推進会議では個々の事業評価は不要ではありませんが、全体として活動成果が分かるように示されるべきだと思います。また、団体数だけでは参考指標の扱いとなってしまいます。(担当課では把握済みだとは思いますが)活動実績が分かる指標も示されるべきだと思います。

(追加案)

- ・ (事業数だけでなく)事業で想定した参加者数(レベル1)、その結果の参加者数(レベル2)、参加者からの評価や満足度(レベル3)
- ・ 団体の加入者数(レベル1)、活動実績(レベル2、事業数等に含まれるなら内数として表示)

【情報共有】

充実している分野だと思います。一方、紙媒体をいつまで、どのように活用していくかは、検討の余地があると思います。各媒体(広報紙、テレビ、メール、LINE・ツイッター、ホームページやライブ中継等)の利用者に対し媒体選択の志向性が分かれば良いと感じます。それぞれ媒体では良い評価が得られていると思いますが、全方位で強化していくにも資源的な限度があると思います。情報の即時性、双方向の情報伝達、情報弱者対応といった課題がある中、より良い情報ミックスが求められ、広報広聴だけの視点でなく自治基本条例からの議論があっても良いと思います。

(追加案)

- ・ 各媒体利用者からの媒体選択の志向性(レベル3)

【市政運営】

危機管理に関する項目が含まれているのは良いと感じます。マニュアルは金庫に保管しておくのではなく、利用されてこそ価値があるものです。ですので、マニュアル作成や改訂内容が必要な人に行き届いているのか、災害弱者にとっても分かりやすく伝わり災害時の行動につながるのか、という点も指標化できれば良いと感じます。健全化判断比率の関連では、民間企業に求められているようなリスク項目もあるならば、リスク件数も記載した方が良いと思います。

(追加案)

- ・ 危機管理マニュアルの理解度調査、分かりやすさ調査(レベル3)
- ・ 健全化判断比率のリスク項目数(レベル2)

【包括指標】

これまでの議論で「自治基本条例を知っているか」の指標だけでは不十分だという意見が多かったと認識しています。包括指標ではレベル1、2、3の定義はこれまでの分野とは少し異なるかもしれませんが。条例の存在、認知、理解といった知識の指標をレベル1、実際に活動や行動をしたのかがレベル2と考えました。レベル2では条例知識とは切り離し、純粋な実績としての指標で良いと思います。前述の参加や協働の指標と重なる部分はありますが、そこでは捕捉しきれない市民行動もあると思います。また、レベル3の質の指標としては、条例の意義と市民の行動が結びついて、条例がある事を

良いと感じているのか、市民の行動にどのように活用していきたいかといった深い理解度や参加協働への意欲等が指標化されれば良いと思います。

(追加案)

- ・「条例を知っているか」の他に、「理解しているか」の割合(レベル1)
- ・具体的な催しや行事の例を示し参加や協働の実績調査(レベル2)
- ・条例制定の満足度(レベル3)
- ・条例の活用意欲(レベル3)

追加案を要約し下表に転記しました。初めから全てのマス目に完璧な指標を設定できるとは思いませんが、市民から見て分かりやすく「見える化」されている事が重要だと思います。明瞭な指標、バランス良く整合された配置、事実の可能な限りの指標化(報告事項で一部補足)は、事実認識のバラつきやズレを回避する重要な要件だと思います。また、各指標に対し目標値を設定し白黒を明確にする事も必要です。個別の評価は行政評価側の役割かもしれませんが、推進会議ではマス目単位の評価基準を検討していく必要があると思います。

分野	レベル(成熟度、進捗度、浸透度を表す分類)		
	レベル 1(機会指標)	レベル 2(結果指標)	レベル 3(質指標)
参加	・参加の可能枠数	・延人数だけでなく可能な範囲の正味参加者数	・参加結果の満足度
協働	・事業等の想定参加者数	・事業等の実参加者数	・参加結果の満足度
情報共有			・媒体の志向性
市政運営		・リスク項目数	・危機マニュアルの分かりやすさ度
包括指標	・条例理解度	・市民目線での参加や協働実績	・条例の満足度 ・条例の活用意欲

以上